

令和3年度消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金）の成果及び評価報告書

1. 令和3年度消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金：ソフト事業）（令和3年度当初予算分）

目的	目標	事業実施主体	目標値	実績	達成度	評価	所要額 実績 (円)	交付金 相当額 (円)	県による評価の概要
I 農畜水産物の 安全性の 向上	農薬の適正使用等の総合的な推進	和歌山県	農薬の不適切な販売及び使用の発生割合 目標値：0%	0%	100%	A	1,808,291	806,000	研修会の開催や、啓発資料の活用等により、農薬の使用者・販売者に対して、適正な取り扱いをするよう指導を行った。 農薬残留調査が終了したことは、本県の特産作物であるさんしょうの防除薬剤の登録に繋がるものとして期待できる。 今後も引き続き、農薬販売者や使用者への指導に取り組み、不適切な販売及び使用の発生率0%を維持するとともに、本県特産作物の農薬残留検査を実施し、防除薬剤の登録拡大を目指す。
	海洋生物毒の監視の推進	和歌山県	海洋生物毒のモニタリングの総実績数 目標値：110回	114回	103%	A	478,500	175,000	海洋生物毒のモニタリング総実施数の目標110回に対し、漁業の実施状況を考慮して114回の調査・分析を行っており、目標回数を達成している。 漁場環境モニタリング体制や、貝毒検出時における出荷自主規制を要請する監視体制を継続することで、毒化した二枚貝の流通が未然に防がれており、水産物の安全性確保に貢献したことから、本事業は適切に実施できたと考えられる。 令和3年度は、県内において貝毒の発生はなかったが、瀬戸内海域では依然として貝毒が頻発している傾向があることから、今後も二枚貝の安全性確保を図るため、各海域の漁業実態を踏まえた監視調査を継続して実施する必要がある。
II 伝染性 疾病・ 病害虫 の発生 予防・ まん延 防止	家畜衛生の推進	和歌山県	家畜衛生に係る取組の充実度 目標値：101.6%	106.1%	104%	A	6,798,418	3,365,000	取組みの充実度については、目標値101.6%に対して実績106.1%となり目標を達成できた（達成度104%、評価A）。 これは、令和2年度の県内における高病原性鳥インフルエンザ及び豚熱の発生を踏まえ、飼養衛生管理基準に係る農家指導を継続して行い、遵守率が向上し、農場における伝染性疾患の発生リスクが全体として低下したためと考えられる。また、各農場で問題となっている生産性を低下させる疾病や病原体に対し、実情に応じた指導・検査を行った結果、これらによる被害低減につながったと考えられる。今後も上記取組みを継続して行い、家畜の伝染性疾患の発生予防・まん延防止に努める。
	養殖衛生管理体制の整備	和歌山県	養殖衛生管理指導を実施した経営体数の養殖等経営体総数に占める割合 目標値：100%	100%	100%	A	1,544,000	713,000	新型コロナウイルス感染症がまん延する中、リモートにて会議や研修に出席し、県内養殖衛生対策会議を書面開催とする等工夫し、コロナ渦においても積極的に情報収集・提供を行った。 養殖衛生管理指導については、目標値である49経営体を達成し、前年度より6経営体多い40経営体に対し巡回指導を行い、養殖現場における衛生管理技術の向上を図った。また、魚病検査や種苗導入前の健康診断等についても前年度より多く実施するなど、魚病の発生予防・まん延防止に努めた。 以上のことから、本事業は適正に実施できたと考えられる。 今後も継続して、魚病の発生予防・まん延防止に努めるとともに、安心・安全な養殖生産物の供給を維持するため、巡回指導・水産用医薬品の適正使用指導等に努めなければならない。
	病害虫の防除の推進	和歌山県	薬剤抵抗性病害虫・雑草の発生状況調査等の手法の確立の現状からの向上率 目標値：138%	143%	103%	A	2,187,599	1,078,000	本事業の実施により、本県の主要品目における重要な病害虫（実エンドウの灰色かび病、カンキツのチャノキイロアザミウマ、モモせん孔細菌病、ウメかいよう病）の簡易な薬剤感受性検定手法を確立するという目標を達成することができた。検定にかかる経費、時間を削減でき、現場で実践可能な技術であることから、薬剤抵抗性病害虫対策として有用であると考えられる。今後はこれらの手法の普及に取り組みたい。 キヌサヤエンドウのハナアザミウマに対する反射マルチ等の物理的手段と有効薬剤の適期防除による管理技術では、被害低減効果を明らかにし、目標を達成できた。本技術の周知を行った。 カンキツかいよう病およびそうか病に対して、病斑のせん除と薬剤散布を組み合わせた両病害の同時防除法では、従来と同等の防除効果があることを明らかにし、目標を達成できた。新技術として周知を行った。 クビアカツヤカミキリに対する樹木保護用コーティング剤やネット等を用いた物理的防除手法では、食入数や産卵数が減少する可能性があることを明らかにし、目標を達成できた。生産現場へ周知した。今後はさらに改良を重ね現場に導入されるよう普及に取り組みたい。
			薬剤抵抗性病害虫・雑草や従来の防除対策では十分な効果が得られない病害虫・雑草等の管理手法等の普及取組数 目標値：9回	10回	111%	A	2,421,702	1,191,000	
重要病害虫の特別防除等	和歌山県	対象病害虫の調査の総回数 目標値：488回	488回	100%	A	154,000	154,000	本事業の実施によりミバエ類、コドリリング、カンキツグリーンング病菌及びスイカ果実汚斑細菌病菌の発生は認められず、県内への侵入はないことを確認できた。今後も重要病害虫の侵入を警戒するため、引き続き侵入状況の把握に努める必要がある。	
総計・総合評価					104%	A	15,392,510	7,482,000	

2. 令和3年度消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金：ソフト事業）（令和2年度補正予算繰越分）

目的	目標	事業実施主体	目標値	実績	達成度	評価	所要額 実績 (円)	交付金 相当額 (円)	県による評価の概要
特別交付型交付金									
Ⅱ 伝染性 疾病・ 病害虫 の発生 予防・ まん延 防止	病害虫の防除の 推進	有田川町	スクミリンゴガイの発 生抑制	スクミリ ンゴガイ の発生抑 制	達成	適正	85,248	42,624	本事業の実施により数字にはできなかったものの、防除効果は実感できており、またチラシの作成・配布 を行い広報等も行っていることから一定の成果はあったものとする。今後農薬の種類をかえて実施を予定 していることから、防除技術の向上や生産者への広報等が期待できる。
	重要病害虫の特 別防除等	和歌山県桃研究 協議会	クビアカツヤカミキリ の発生抑制	クビアカ ツヤカミ キリの発 生抑制	達成	適正	267,960	133,000	本事業の実施により県内のモモ、スモモ、ウメ産地の生産者等に対して、当害虫の防除対策の重要性につ いて広く啓発、指導できている。生産者自身が園地や周辺に注意を払い、通報につなげることが出来ただけ でなく、対策の重要性の周知によりその後の伐採等にスムーズにつなげることができた。引き続き当害虫の 被害拡大を抑制するため、生産者等への啓発を継続的に実施し当該虫による被害の拡大抑制につなげていた だきたい。
		和歌山県	クビアカツヤカミキリ の発生抑制	クビアカ ツヤカミ キリの発 生抑制	達成	適正	1,571,681	785,840	本事業の実施により、被害発生地域において秋季に悉皆調査を実施し、新たな被害園に対する防除指導を 行うことが出来た。指導により多くの被害園地では掘り取りやネットを巻く等の応急的な防除を行った後、 被害樹を伐採することによりさらなる被害拡大を防ぐことが出来た。 また県内のモモ、スモモ、ウメ産地の生産者等に対して当害虫の防除対策の重要性について広く啓発、指 導できた。生産者自身が園地や周辺に注意を払い、通報につなげることが出来ただけでなく、対策の重要性 の周知によりその後の伐採等にスムーズにつなげることができた。 引き続き当害虫の被害拡大を抑制するため、悉皆調査の実施による被害の拡大抑制と生産者に対する防除 対策の啓発、指導を行う。
総計・総合評価					達成	適正	1,924,889	961,464	